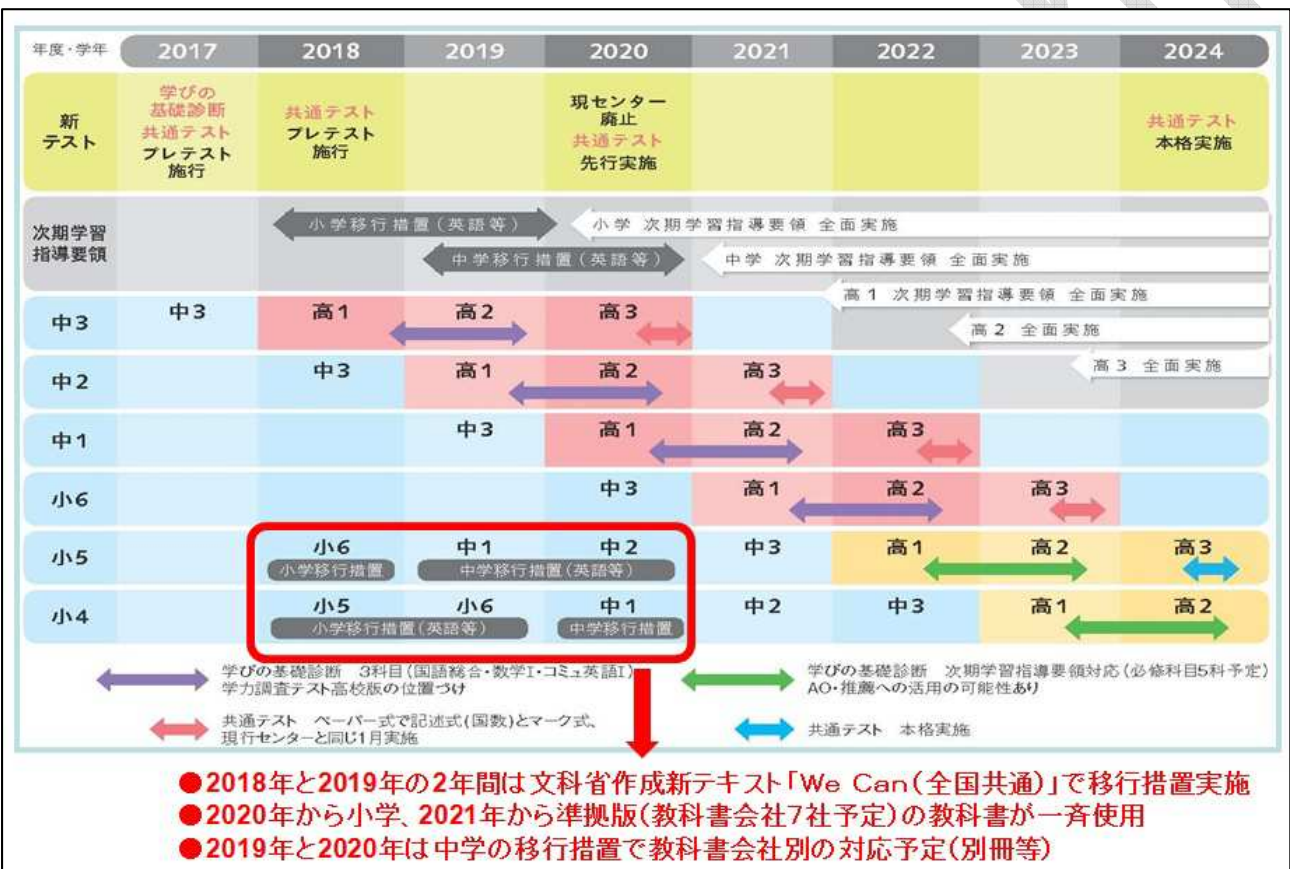


楽力向上NEWS 12

◆小学生のこれからの英語事情

2020 年度に教科化、2018 年先行実施の小学英语語。

近年、小学校でも英語に触れる機会を多く持つようになりました。その変化に伴って、学習指導要領も以下のような体制となる予定です。



小5・6生対象 | 2018年度(移行措置)について

		新潟市	三条市	燕市
使用テキスト	現在の「Hi Friends」+ 移行措置冊子		●	各小学校長の判断に委ねる。(不確定要素多)
	新テキスト「We Can」使用予定	●		
時間数	年間 50 コマ		●	
	年間 70 コマ	●		
評価	観点別評価(3段階評価等)を行う予定	未定	●	

2020 年度から始まる小学英语の概要

小3・4「外国語活動」	小5・6「外国語科（教科型）」
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の素地を養う。 ・年間 35 コマ（週 1 コマ程度）。 ・聞く、話すのみ。 ・教科化への動機づけ ・通知表への評価㉔。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の基礎を養う。 ・年間 70 コマ（週 2 コマ程度）。 ・聞く、話す：技能を身につける。 ・読む、書く：慣れ親しませる。 ・通知表への評価㉕。

次期学習指導要領 改訂のポイント

「読む・書く・聞く・話す（やりとり/発表）の4技能の目標が設定。

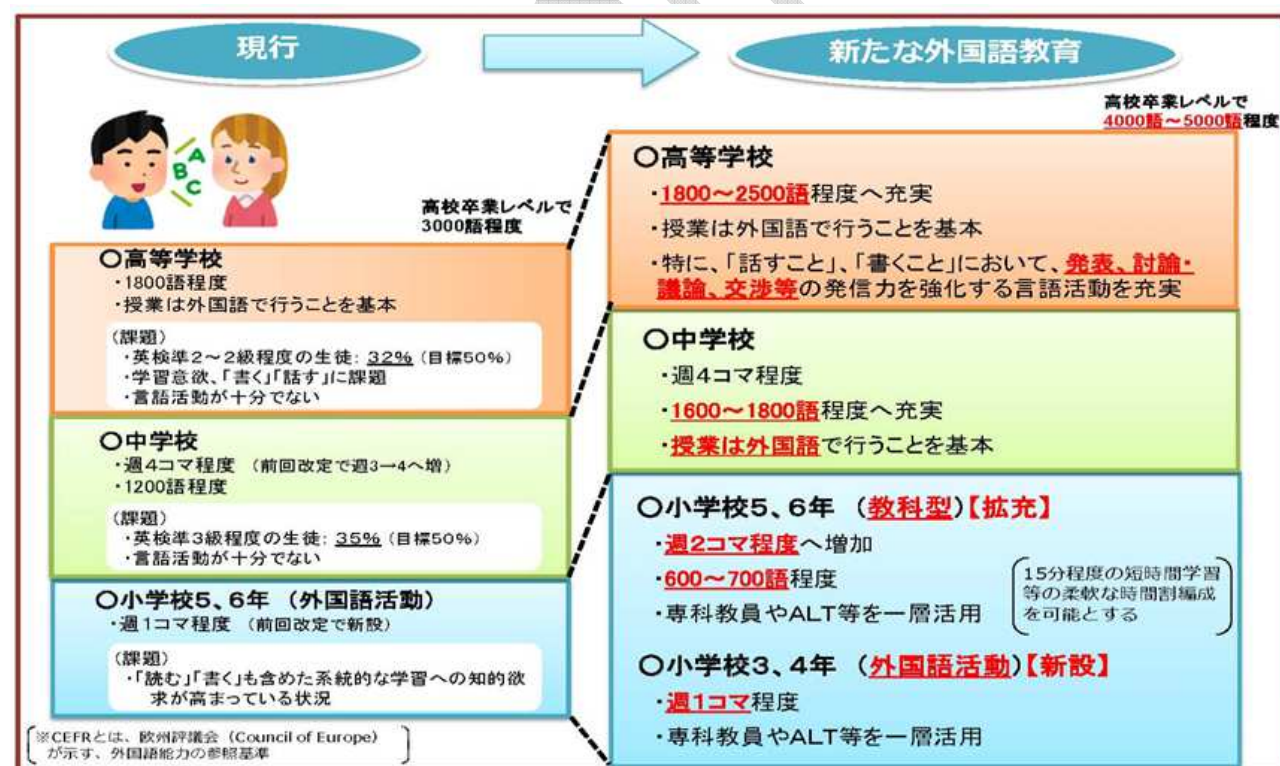
「聞く・話す」を中心とした「外国語活動」は小3・4。

「読む・書く」を加えた教科（英語）は小5・6で履修。

語彙数は、小3～6で600～700語程度、中学校では現行1,200語程度⇒1,800語へ変更。

小学の教科化に伴い、中学では「原形不定詞」「現在完了進行形」「仮定法」等が加わる。

英語教育の現状と新たな英語教育のめざすレベル



(文科省資料) 平成29年5月より

小学3・4年生にまで外国語の活動が引き下げられると共に、小学校で600～700語の英単語を学びます。また、英語で文章を書く、理解するまでのレベルを要求されそうです。

※中学校の授業は「オールイングリッシュで行う」という表記に注目。

新英語テキスト「We Can」のスゴさ～

※「We Can」とは文科省作成、全国共通の新英語テキストの名称。

特徴 1 これまでの英語教育の常識を覆す基本例文配列！

- ・ be 動詞、一般動詞の扱いでは 3 人称の単複を扱わない。
- ・ can, would like～, 不定詞・動名詞、不規則動詞の過去形を扱う。
- ・ 疑問詞 (5W1H) は扱うが、各基本本文の否定文の扱いがほとんどない。
- ・ 用語は、コミュニケーションの基本となる「I と You の世界」がメインで発信型。
- ・ 言語の「場面」と「機能」を軸とした基本本文の配列。文法的な関連はほとんどない。

→全員がつまづく 3 単現を避け、英語嫌いを作らないカリキュラム配慮！

特徴 2 600～700 の単語の内容が従来とは別次元！

- ・ 生活に密着した単語は、幅広くかなり細かなものまで扱う。
- ・ 中学以降に必要な基本単語を数多く積極的に扱う。
月、曜日、数 (序数)、国、食べ物、職業、施設、基本動詞・形容詞、頻度副詞など。
- ・ 連語や慣用表現は「活用頻度の高いもの」として新表現が増加。
- ・ 意味のわかるものと書けなければならない単語の区別が曖昧。

→圧倒的な単語数！中学基本単語 (中 1 レベル) を超える分量に注目！

特徴 3 新教科書はアクティビティを前提とした活動型！

- ・ 4 技能を基本とし、「L (リスニング) ⇒ S (スピーキング) ⇒ W (ライティング) ⇒ R (リーディング)」の流れで学習。特に L (リスニング) と S (スピーキング) 活動に高比重。
- ・ 不慣れな教師用の指導マニュアルが詳細。アクティビティを通して習得を図る単元構成。
- ・ 文や単語のしくみ・ルールについての解説は一切なく、理屈抜きのインプットが狙い。
- ・ 指導要領で明記された W (ライティング)、R (リーディング) は最小限のイメージ。
特に、W (ライティング) の練習量が少ない。

→新教科書を学習する生徒に極めて高い負荷がかかることが予想！

☆新英語テキスト (We Can) の誤解…

とりあえず、中学内容をしっかり先取り学習すれば大丈夫？

- No!

小学英語は中学の前倒しではありません。学ぶ内容も順序も学び方も異なります。

これまでの小学校の英語学習は不足部分が多かった!?

出典: 小学校外国語活動実施状況調査(1426) 小学校5, 6年児童約2万人、中学校1-2年生約4万人、高等学校1-2年生約4万人、大学1-2年生約4万人、専門学校1-2年生約4万人、短期大学1-2年生約4万人、職業訓練校1-2年生約4万人、その他約4万人

小学校外国語活動が中学校でどのように役立ったか (中1)

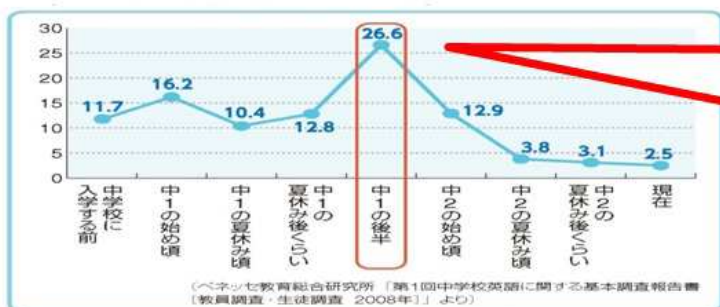
○「小学校の外国語活動で学んだことの中で、中学校の英語の授業で役に立ったこと」として、
 生徒の88.8%が「アルファベットを読むこと」(86.8%)、
 83.9%が「アルファベットを書くこと」(80.7%)、
 82.8%が「英語で簡単な会話をすること」(80.5%)、
 75.8%が「英語の発音を練習すること」(73.7%)、
 と回答。
 ()内は、24年度調査結果

小学校の外国語活動でもっと学習しておきたかったこと (中1)

○「小学校の外国語活動でもっと学習しておきたかったこと」として、
 生徒の83.7%が「英単語を書くこと」(81.7%)、
 80.9%が「英語の文を書くこと」(78.6%)、
 80.1%が「英単語を読むこと」(77.9%)、
 79.8%が「英語の文を読むこと」(77.6%)、
 と回答。
 ()内は、24年度調査結果

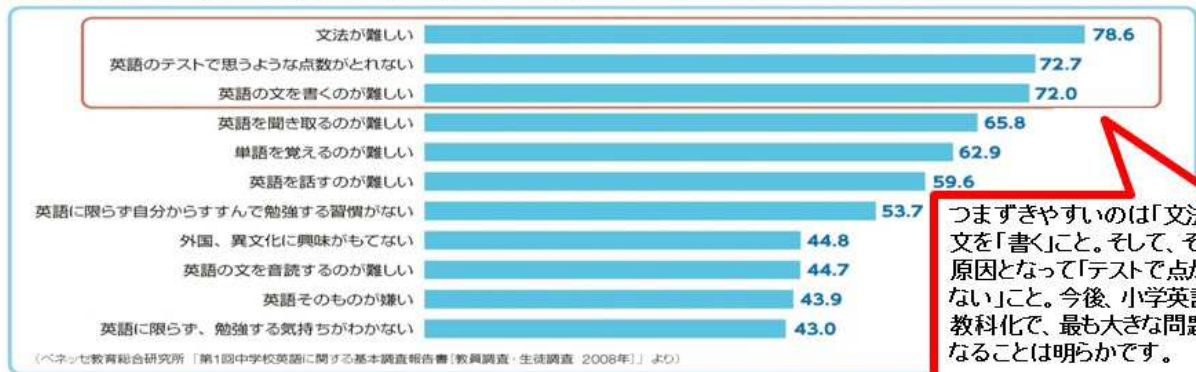
小学校で学んだアルファベットの読み書きや発音、会話練習などは役立ったものの、英単語・英文の読み書きがもっと勉強したかった、というアンケート結果です。現在の「外国語活動」では、アルファベットは学ぶが、英単語・英文に触れる機会すら少ない。さらに中学生になると英語につまずく生徒の急増に歯止めをかけるべく、小学生のうちから「前倒し」で学習を。という文科省の意志を感じます。

●英語を苦手だと感じるようになった時期(中学2年生アンケート)



Be動詞と一般動詞、三単現のs、進行形、過去形までに多くの生徒がつまずくのは昔から変わりません。小学校で英語を学習してきた生徒も、このあたりから差がついてきます。中学校のテストでは、単語や文を正確に書くことが求められるからです。

●英語学習でつまずきやすいポイント(中学2年生アンケート)



つまずきやすいのは「文法」と文を「書く」こと。そして、それが原因となって「テストで点がとれない」こと。今後、小学英语の教科化で、最も大きな問題点となることは明らかです。

2020 年度に向け、【英語の重要性】は、**待ったなしです (※特に現小学5年生以下の学年ね)**。もうこれからは【英語ができない⇨進学は諦めてね、勉強での立身出世は諦めてね】という日本国からメッセージを親御さんは真摯に受け取って下さい。

大学受験では「出願基準、英検〇級以上 etc」、就活でも「エントリー基準 TOIEC〇点以上」、更に「TOIEC の点数で給与差を設ける企業」もあります。もう 1 回言います。**「もう待ったなし」**です。

勉強するのは【子ども】です。が、子どもに「社会変化がどーのこーの」「グローバル化がどーのこーの」「AI がなんちゃら」と言っても伝わるはずはありません。基本、子どもは楽な方を選びます (笑)。親が先達として我が子の未来を明るく照らしてあげて欲しいと願います。

発行責任者 宇佐美利宏
 TEL 92-8805 FAX 92-8808

